

## 事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよいまちづくり	⑥上下水道	①	水道水の安定供給

事業名	水道施設維持管理事業	担当課名	水道課
-----	------------	------	-----

### 【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)	安全・安心な水道水の安定供給
(事業概要等)	配水場等の配水施設(配水管を除く。)の運転管理 配水場等の配水施設(配水管を除く。)の電気、機械設備等の保守点検及び補修

### 【事業費】

項目／年度	R03 (決算額)	R04 (決算額)	R05 (決算見込額)	R06 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	137,796	132,167	117,539	188,424	6年度:非常用発電設備修理費含む
うち市負担分(千円)	0	0	0	0	

### 【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 実績値	R06年度 目標値
年間総需要量(年間配水量)	千m <sup>3</sup>	8,233	8,211	8,029	8,300
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
効率的な施設の運用及び機器点検等を行い、安全・安心な水道水の安定供給ができた。					

### 【事業の見直し】

R4年度からの 変更点・改善点	配水における運用について、大阪広域水道企業団からの直送比率を高め、電力の削減に努めた。
--------------------	---

### 【事業の課題】

課題・問題点	配水施設の維持及び効率的な水運用技術を委託業者に指導・監督を行う職員の水道施設の維持管理の継承が課題である。
--------	--

### 【事業の評価・方向性】

担当課の評価	A 現行どおり
上記評価理由および今後の方向性	市民に安全・安心な水道水を安定供給するための事業を継承する。水道法により、水道施設の基盤強化及び良好な維持・管理に努める。

## 事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよい まちづくり	⑥上下水道	①	水道水の安定供給

事業名	水道情報管理システム整備事業	担当課名	水道課
-----	----------------	------	-----

### 【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
水道施設の位置、構造、設置時期等の施設管理上の基礎的事項を記載した水道施設台帳を電子化しておくことは、水道施設の適切な維持管理・更新及び窓口業務の効率化を進めるうえで必要不可欠であるとともに、災害時等の危機管理体制の強化や、水道事業者等の間で広域連携・官民連携を検討する際の基礎情報としての活用を図る。
(事業概要等)
給配水管データの更新並びに水道台帳システムの保守及び機器のリース等

### 【事業費】

項目／年度	R03 (決算額)	R04 (決算額)	R05 (決算見込額)	R06 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	3,651	8,898	5,896	6,630	
うち市負担分(千円)	0	0	0	0	

### 【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 実績値	R06年度 目標値
水道情報管理システム整備進捗率	%	100	100	100	100
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
配水管情報をシステム化し、速やかに情報を把握することが出来たことにより、漏水発生時等において、問題の箇所を迅速に特定して対応することで、2次的な被害や影響を最小限に抑えることや、窓口業務において事務の効率化を図ることが出来た。					

### 【事業の見直し】

R4年度からの 変更点・改善点	配水管更新に係るデータを、当年度中にシステムへ反映することで、迅速な現状分析及び情報提供を図る。
--------------------	--

### 【事業の課題】

課題・問題点	昭和50年頃までに施工された配水管には、詳細な情報が残っていないものがあるため、漏水修理時等に得られた情報を随時追加させていく必要がある。
--------	---

### 【事業の評価・方向性】

担当課の評価	A 現行どおり
上記評価理由および今後の方向性	水道法により、台帳整備が義務付けられているが、加えて国から水道台帳を電子化することが、災害時対応等、水道事業者にとって有効であると示されていることから、今後も引き続き、新たな管路情報の更新や過去情報の修正作業を継続しながら水道台帳システムを整備していく必要がある。

## 事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよい まちづくり	⑥上下水道	①	水道水の安定供給

事業名	配水管維持事業	担当課名	水道課
-----	---------	------	-----

### 【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)	漏水等による無駄な水資源の流出を防ぎ、有効率の低下を防ぐ。
(事業概要等)	毎年度全戸対象に行っている漏水調査や、市民等からの通報により漏水箇所を特定し、修繕を行うことにより、有効率の低下を防ぐ。

### 【事業費】

項目／年度	R03 (決算額)	R04 (決算額)	R05 (決算見込額)	R06 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	76,756	77,207	120,050	96,316	
うち市負担分(千円)	0	0	0	0	

### 【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 実績値	R06年度 目標値
漏水修理件数	件	220	232	226	262
漏水修理により防いだ推定損失額	千円	79,759	26,187	26,798	51,296
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
令和5年度においては、大規模な漏水が発生したことにより事業費が増加したが、226件の漏水を発見し、26,798千円の漏水損失を抑えた。					

### 【事業の見直し】

R4年度からの 変更点・改善点	AIや人工衛星を活用した漏水発生箇所特定、またカメラやドローンによる管路調査など、新技術の情報収集に努め、配水管の維持管理において、効率的で効果的な運用を図っている。
--------------------	---

### 【事業の課題】

課題・問題点	漏水発生時において、修理対応にあたる施工業者及び交通誘導員の確保が難しく、漏水対応に遅れが生じることが課題である。
--------	---

### 【事業の評価・方向性】

担当課の評価	A 現行どおり
上記評価理由および今後の方向性	管路更新を進めているが、耐用年数を経過した管路もあるため、漏水箇所の早期発見・早期修理で対応する必要がある。 水道法により、水道施設の良好な維持・修繕が義務とされており、今後も継続して行う必要がある。

## 事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよいまちづくり	⑥上下水道	③	上下水道事業の健全経営の推進

事業名	検針・料金収納業務	担当課名	水道課
-----	-----------	------	-----

### 【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
泉大津市水道事業が水道需要者から使用量に応じて水道料金徴収をおこなう、検針・収納業務を委託することで、人件費等の経費削減を図り水道事業の経営健全に寄与する。
(事業概要等)
営業区域内に給水しているすべての家庭・事業所・施設の水道メーターの検針、計量法による水道メーターの定期交換、水道料金の徴収、給水停止及び解除、窓口受付、開閉栓その他関連業務

### 【事業費】

項目／年度	R03 (決算額)	R04 (決算額)	R05 (決算見込額)	R06 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	79,596	79,596	79,892	84,797	R6年度検針・料金収納委託業者長期継続契約更新締結
うち市負担分(千円)	0	0	0	0	

### 【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 実績値	R06年度 目標値
調定収納率 (次年度、5月末時点で算出)	%	99.23	99.22	99.24	99.30
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
水道料金の調定収納率を安定に保つことにより、水道事業の経営健全に寄与した。					

### 【事業の見直し】

R4年度からの 変更点・改善点	常習的な未納者に対しては、停水サイクルの短縮などを行った。また訪問による催促の強化を図った
--------------------	---

### 【事業の課題】

課題・問題点	検針・料金収納の業務委託(R6～R8の3年間)について、近隣2市との合同選考をおこなっているが、大阪広域水道企業団に統合予定の自治体もあり、次回選考時には調整等が必要となる。
--------	---

### 【事業の評価・方向性】

担当課の評価	A 現行どおり
上記評価理由および今後の方向性	・調定収納率は、99%以上の高位で安定推移している。

## 事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよいまちづくり	⑥上下水道	①	水道水の安定供給

事業名	配水管整備事業	担当課名	水道課
-----	---------	------	-----

### 【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)	地震等の災害に強い水道施設の構築、安全・安心な水道水の安定供給
(事業概要等)	避難所となる小中学校や病院施設といった重要施設への耐震化及び被害率が高いと想定される管路の更新を行う。

### 【事業費】

項目／年度	R03 (決算額)	R04 (決算額)	R05 (決算見込額)	R06 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	642,406	765,523	840,893	757,331	
うち市負担分(千円)	0	0	0	0	

### 【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 実績値	R06年度 目標値
耐震化率(耐震幹線ループ、重要路線)	%	65.7	73.2	79.3	83.8
避難所(小中学校)・病院(収容病院)への耐震化 <small>※地域防災計画に基づく</small>	%	50	56	63	81
被害率が高い管種(CIP)の残存延長	km	10.5	10.0	9.8	9.5
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
計画に基づき耐震化事業を進めたことにより、避難所等重要施設への配水管が耐震化され、災害対応能力の向上を図った。					

### 【事業の見直し】

R4年度からの 変更点・改善点	大阪市水道局と水道工事施工設計・施工管理の技術支援業務委託を締結し、市職員の不足分を補っている。
--------------------	--

### 【事業の課題】

課題・問題点	高度成長期に整備された水道管の老朽化が進行しており、管更新を一定のペースで進めていくための人員体制が必要であるが、ベテラン職員の退職や職員数の減少等により、経験豊富な市職員が不足していることが課題である。
--------	--

### 【事業の評価・方向性】

担当課の評価	B 改善し継続
上記評価理由および今後の方向性	老朽管の更新は、水道事業者にとって全国的な課題であるが、現状は法定耐用年数は一律40年であり、それ以降は全て老朽管という区分がされている。しかし、管種や埋設状況により管の実耐用年数は異なるため、適切な更新年数を定めることが必要である。また、適切な更新年数についてはAI等を活用した新技術の開発が進められており、情報収集を行うとともに検討を進める。